

附属宮島自然植物実験所における地域貢献

技術センター フィールド科学系部門

向井 誠二

1. はじめに

広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所は、広島県の西方面、世界遺産である厳島に設置し、広島大学理学研究科の附属施設として植物学に関する教育・研究を主目的として設置された。しかし、近年大学のみの教育研究活動のみならず、研究成果を社会に還元するために、地域社会との積極的な交流をはかり、また世界遺産に登録された宮島の自然の保全や希少な生物の保護に関する研究を行っている。宮島に所在する自然植物実験所としての責務を担う様々な活動を行っている。当施設は教育・研究のみならず大学と地域との繋がりも重要と思われる。特に宮島は国内外の来島者が2008年度は過去最高の年間340万人を超え、宮島自然植物実験所の役割は各方面からの窓口としての注目度が高く宮島の自然の保全に関し積極的に協力している。

2. 社会貢献

自然植物観察会の実施

宮島自然植物実験所はヒコビア会共催で、毎月一回自然植物観察会を実施し、地域一般からの参加希望者を募り案内を送っている。自然観察会は県内の植物相の解明や自然保護、高度生涯学習の場として大学関係者や愛好家が参加し植物を通じて自然に親しみ自然保護と教養を高める目的で行われており、また、広島大学の教職員や学生達も参加し知識を高めている。

植物観察会は、1977年以来宮島自然植物実験所が毎回担当しており、既に2009年4月で延べ478回になった。会員もメーリングリスト会員約150名、はがき案内200名の計350名に案内を出している。2006年11月16日には、開催回



数450回（50周年記念）の記念祝賀会が廿日市市吉和の「広島県立もみのき森林公園」で行われた。当日の参加者は70名を超え、当日の様子は中国新聞に掲載された。また、観察会の状況は500文字程度で毎月ヒコビアミニレターとして記録を記載している（ホームページにも掲載）。これは、当日参加できなかった方々や部外者等にその時の様子が伺えるよう配慮されており好評である。その他「宮島自然植物実験所ニュースレター」にも取りまとめたものを年2回発行している。このように自然植物観察会は、広く一般の人との深い交流の場としての役割を果たし、野外に於ける自然教育の場として親しみを持たれる身近な宮島自然植物実験所となっている。

宮島植物実験所のウェブページ公開（地域への情報公開の場）

宮島自然植物実験所は、宮島の西側に位置し宮島町内から4km 離れていることから隔離された施設のように思われがちであるが、遠隔地であるがゆえにウェブページを通じて宮島の情報を積極的に公開し地域との連携を密にし、より一層身近に感じてもらっている。ウェブページには宮島の自然と植物の紹介や、施設の案内

や活動状況なども紹介する他，地域との具体的なつながりの深いサクラの開花情報やモミジの紅葉情報なども公開している．その他，宮島の季節的植物の紹介・厳島の自然・島と暮らし（今と昔）・宮島の野鳥博物館（宮島に生息する野鳥128種類の公開）・宮島のシダ類・菌類の紹介・宮島の主な年間行事の紹介・ミヤジマトンボの紹介・宮島の名水案内・シカとの関わり・自然植物観察会の案内・宮島の名水案内・その他宮島自然植物実験所の施設の紹介・スタッフの紹介・所在地・施設利用・室浜砲台の紹介・植物観察会の活動記録と紹介・宮島教養ゼミの紹介・石垣島・西表島での宮島生態学実習の紹介・宮島の自然の写真集なども紹介し日々更新している．

教育機関への野外教育の場としての協力

当施設では，小・中・高校・大学生や一般利用者の野外教育の場の提供と教育・実習なども要請に応じて臨機応変に対応して行っている．

公民館活動及び来園者に対する対応

各種公民館活動や，社会人に対する野外教育の場として実験所園内はもとより宮島全島にわたり野外での教育案内を行っている．特に最近では，中高年実践セミナーなどと題して野外での自然観察の講演依頼などが多々ある．

各種出版物の発刊

「宮島の植物と自然 - 正規版 - 」の冊子

宮島自然植物実験所では，「宮島の植物と自然 - 正規版 - 」を発刊し広く一般の人に宮島をより身近に知って貰おうと，宮島の代表的な植物を紹介した本を発行した．地元教育関係機関に教材として配布していたものを，増補改訂したもので，宮島での自然散策や野外教育の教材として利用されている．

配布版については，地元小・中学校及び役所・公民館等に無料配布された．



「宮島自然植物実験所ニュースレター」年2回発行

宮島自然植物実験所では，年2回「宮島自然植物実験所ニュースレター」を発行し，植物実験所関係者や自然植物観察会の方々及び一般の来園者などに配布している．この内容は，毎月実施される植物自然観察会のミニレター・宮島自然植物実験所の主な出来事・研究成果などを取りまとめて掲載している．

職場体験活動への積極的な協力

宮島自然植物実験所では，毎年地元の公立中学校の生徒が職場体験学習として来訪し，職場体験を実施させている．主な目的は，1．働く人々の姿や考え方を知り，将来の進路選択に関する心構えや知識を身につけるとともに，自己の適性を発見したり，自分の生き方を見つめ直していくきっかけとすること．2．働くことの喜びや苦勞・厳しさなどを体験し，働くことの意義や価値を体験から学ぶこと．3．社会人としての基本的な行動様式を理解すること．4．地域社会がどのように職業によって支えられているかを理解するとともに，地域社会の一員としての自覚をもつ目的であり，積極的に協力している．

新聞社・テレビ局などマスコミ関係への協力等

宮島自然植物実験所では，新聞社・雑誌社等への取材協力及びテレビ局・FM ラジオ放送への取材及び出演などにも協力している．



2009年2月25日「FM ラジオ生放送出演風景」

3. 自然保護活動

宮島における自然の保護

宮島自然植物実験所は1964年に設置以来、教育・研究の場として広く利用され現在に至っているが、宮島全島における自然植物園としての役割もある。この優れた島の自然環境の中で生息している植物を中心とするすべての生物等の生態系の環境を保護することも宮島自然植物実験所の重要な役割である。

貴重植物の保護活動

宮島植物実験所は、宮島における貴重な植物の絶滅回避及び保護育成にも努めており、広島県レッドデータブック資料（植物）による絶滅危惧 類8種・絶滅危惧 類18種・準絶滅危惧 27種の合計53種の宮島に生育する植物の絶滅回避及び生育環境の保護にもつとめている。最近では、自然保護のための各種ボランティア活動への協力・助言・指導も実施し、宮島全島の監視的役割も果たしている。

特定野生生物種ミヤジマトンボの保護活動

宮島自然植物実験所では、植物以外にも世界で2ヶ所しか生息しない貴重なミヤジマトンボの保護活動にも協力している。ミヤジマトンボは広島県では1995年に特定野生生物種に指定され、また環境省でも2006年に特別地域保護種に指定された貴重な生物である。環境省・広島県・廿日市市・森林管理署の協力要請のもと、宮島自然植物実験所ではミヤジマトンボの絶滅

を防ぐためにも積極的に協力している。

宮島自然植物実験所の技術専門職員も県指定の「野生生物保護推進委員」に2001年から要請され、推進委員として現在に至っている。また2005年からは「ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会」委員として協力し、現在に至っている。ミヤジマトンボの保護推進委員としての役割

1. ミヤジマトンボの生息地域での個体数の観察。2. 生息地域での自然環境の保護。3. 人為的な乱獲者（愛好家や趣味による捕獲者）の摘発及び指導。4. 年度ごとにその実態を広島県・環境省・廿日市市・ミヤジマトンボ保護管理協議会に報告。5. 環境整備のための、ボランティア活動協力者への助言・指導。6. その他保護のためのマスコミ等取材への協力。



4. その他宮島自然植物実験所における地域貢献

- ・植物標本の収集・保存・管理・国内外の研究機関・研究者への標本の貸し出し、および植物関連情報の提供。
- ・研究活動として、植物を対象とした島嶼生物学的研究や宮島の植物相の長期的モニタリングと瀬戸内海地域の植物・植生に関する資料の蓄積の公開。
- ・宮島のサクラ1927本の調査・データ整理（4ヶ年継続）。
- ・施設利用者及び見学者への実験施設内の案内及びサービス。
- ・森林管理所及び、クスノキ千年委員会への苗

- の提供・講演などの協力．
- ・外国人の研究者・見学者への宮島全島の案内協力活動．
 - ・各種植物園・公民館の生涯教育などへの講演．
 - ・「宮島検定本」作成のための編集協力及び委員．
 - ・(財)日本モンキーセンターへの生態調査協力．

広島大学大学院理学研究科附属

宮島自然植物実験所ホームページ

<http://miyajima.hiroshima-u.ac.jp/~museum/miyajima/top.htm>